

都市計画マスタープラン「地域別構想」(素案)について

5 1 山古志地域の概要

- ・ 長岡市南東部に位置する山古志地域は、周囲を東山連峰に囲まれた中山間地域にあり、山あいの緩傾斜地や幹線道路沿いに集落が点在しています。
- ・ 本地域は、平成16年10月「新潟県中越地震」が発生し、地域に通ずる全ての道路が寸断され、さらに地盤の崩壊や土砂崩れによって、地域全域にわたり壊滅的な被害を受けました。その後、国や新潟県をはじめ、全国の自治体の協力により、平成19年4月には全地域の避難指示が解除され、甚大な被害からの復旧を成し遂げました。
- ・ 地域の中央部には、県道柏崎高浜堀之内線が南北に縦断し、東西には国道291号や352号が配置され、地域住民の日常生活や産業振興を支える重要な路線となっています。
- ・ 種芋原地区や虫亀地区などでは、東山連峰の傾斜地に棚田や棚池があり、稲作や日本有数の錦鯉の養鯉業などが行われています。
- ・ 地域資源としては、特産品の米、かぐら南ばんなどの農作物をはじめ、文化庁の「農村の文化的景観重要地域」に指定された棚田の風景、千年の歴史を有する国指定重要無形民俗文化財の「牛の角突き」、手掘りの道路トンネルとして日本最長の「中山隧道」などがあります。

地域の概要を示す写真

地域に関するデータ

- ・ 総面積 39.8 km² (4.7%)
- ・ 総人口 1,372人 (0.5%)
- ・ 世帯数 495世帯 (0.5%)
- ・ 年少人口比率 7.1%
- ・ 高齢人口比率 42.3%

(出典)平成21年4月住民基本台帳
カッコ内は市全体に占める割合

30 2 現状と課題

地域資源を活かしたまちづくりの課題

- ・ 山古志地域には、景観重要地域として指定を受けた棚田や棚池などの自然資源、無形民俗文化財の牛の角突き、山あいの農地から生産される特色ある農産物など、さまざまな地域資源があり、これらを活かした地域づくりが既に始まっています。今後も、このような地域資源を活かして、都市と農村との広域的な交流・連携を強化し、さらなる創造的な復興につなげていく必要があります。

地域産業の維持と土地利用の課題

- ・ 山古志地域では、年々人口が減少してきており、とりわけ若年層の人口流出が顕著です。地域における雇用や交流の場を創出し、定住人口の確保につなげるため、都市整備の面からも地域産業等の活性化を支援する必要があります。
- 5 ・ 今後の高齢社会を見据え、身近な商業・生活サービス機能を維持・確保していく必要があります。また、集落には人口減少などに伴って、空き地、空き家が発生しています。

道路・交通ネットワーク上の課題

- ・ 県道柏崎高浜堀之内線などの幹線道路や幅員の狭い生活道路では、交通安全施設の設置や除雪体制の維持が必要です。
- 10 ・ 山古志地域内はもとより、川東南部地域に接続するコミュニティバス（NPO法人により運営されている「クローバーバス」）は、自動車を運転しない市民の生活を支える重要な交通手段となっています。今後とも、効率的なバス運行を図るため、さらなる検討が必要です。

安全・安心なまちづくりの課題

- 15 ・ 山古志地域は、県内有数の豪雪地帯であり、冬期間においても、安全に安心して暮らせる地域づくりが必要です。
- ・ 朝日川では、急流が川底を削っており、護岸など河川構造物の改築が必要となっています。
- ・ 芋川、太田川、朝日川水系における山あいの傾斜地では、土砂災害防止に向けた取り組みが必要です。

20

3 地域づくりの方針

< 地域の将来像 >

25 今後、地域委員会や策定委員会の議論を踏まえ、記載する予定

地域振興に向けた基盤整備

- 30 ・ 牛の角突きが開催される「山古志闘牛場」、社団法人土木学会の歴史的建造物として選定された「中山隧道」、日本一のさいの神が行われる「四季の里 古志」など、既存の観光施設については、さらなる活用を図るため、案内標識などの設置を進めます。また、新潟県内はもとより、関東方面などとの広域的な交流・連携を促進するため、都市基盤の面からも地域振興を支援します。
- ・ 「新潟県中越地震」の被災からの記録を次世代に引継ぐため、震災メモリアルなどに関する整備を引続き検討します。
- 35 ・ 錦鯉やかぐら南ばんなど地場産品の販売や観光情報の提供など、住民が主体となって取組

む地域づくりについては、都市整備の面からも支援を行います。

地域産業の活性化と土地利用の誘導

- 5 広域観光に加えて、山の暮らし大学校育成事業などの農山村滞在型・体験型交流事業を促進し、都市と農村の交流をさらに深めるとともに、定住人口の確保につなげるため、空き地や空き家の有効活用などの仕組みづくりを検討します。
- 6 買い物場など、日常生活において必要な機能を身近な範囲内に確保し、高齢社会に対応した地域づくりを推進するため、土地利用の面からも支援を行います。

幹線道路及び生活道路の整備

- 10 山古志地域と周辺地域の連携を図るため、川東南部地域につながる国道 352 号の萱峠トンネル・奥ノ院トンネルなどの整備を促進します。
- 11 通学路や身近な生活道路では、防護柵などの交通安全施設の設置を進めます。

公共交通ネットワークの維持・充実

- 15 コミュニティバスと接続する既存の JR 長岡駅方面行きの路線バスについては、その運行を維持するとともに、接続箇所におけるバス停の上屋整備など、バス交通の利用環境の向上を図ります。
- 16 既存のコミュニティバスについては、継続的な運行に向けて、利用者のニーズに即したバス運行の見直しを図るとともに、地域住民などが主体となったバス運営を支援します。

安全・安心な都市基盤の整備

- 20 雪に強い地域づくりに向けて、雪国の特性に配慮した道路整備や除雪体制の維持に取り組むとともに、克雪住宅の普及などを促進します。
- 21 朝日川における河床低下の対策を講じるとともに、関連する中小河川の整備を進めます。
- 22 土砂災害が生ずる恐れのある区域では、地すべりやがけ崩れによる土砂災害を防止するため、砂防事業等を促進し、あわせて警戒避難体制の強化を図ります。

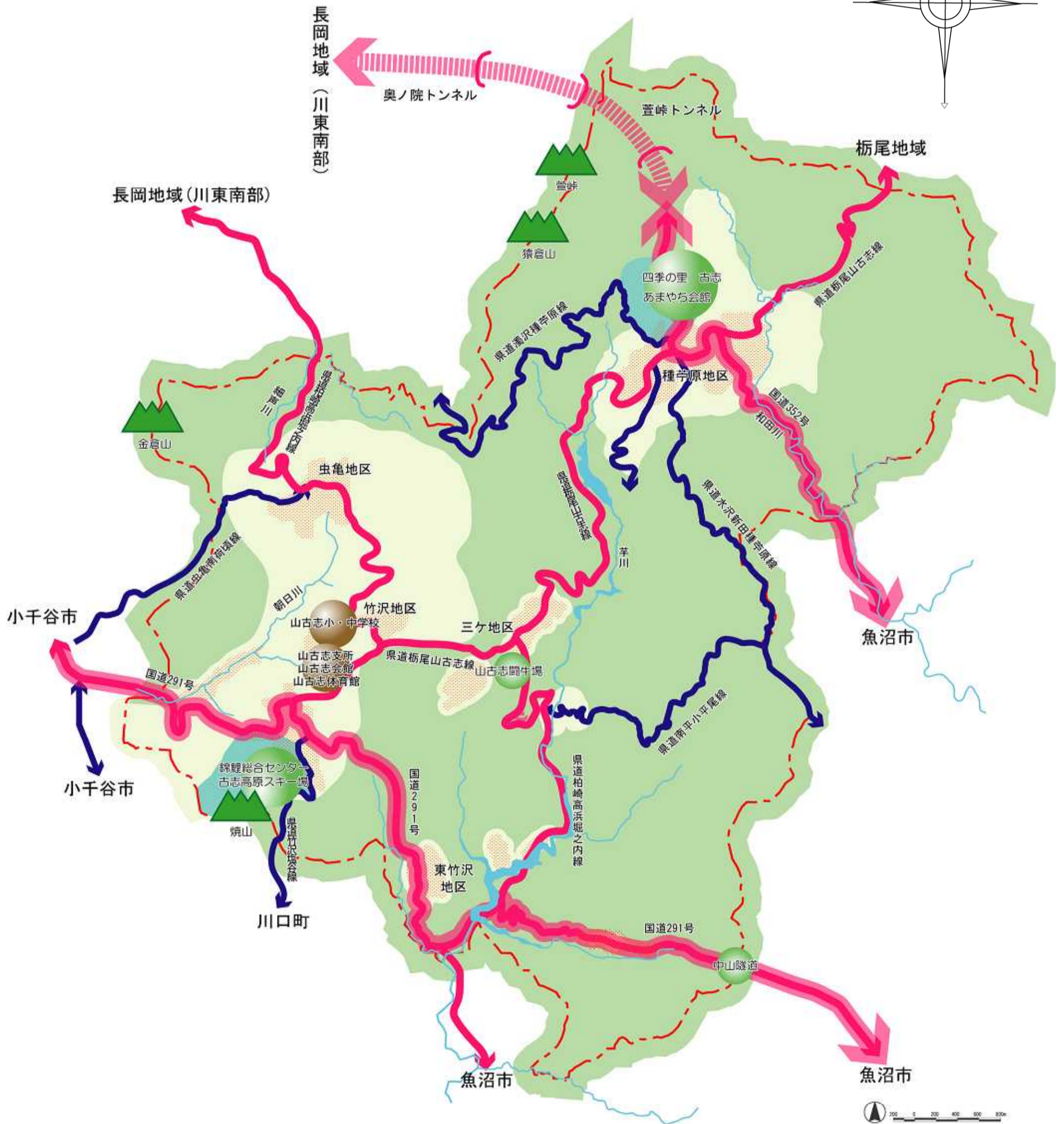
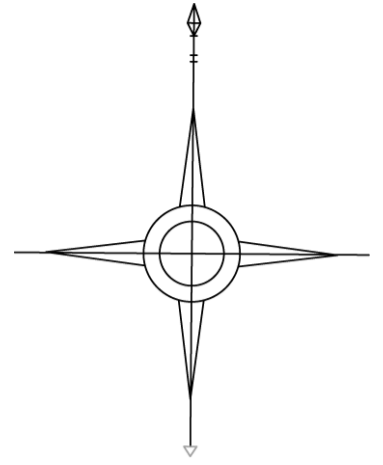
中山間地域における情報基盤の整備

- 25 特色ある地域情報を発信し山の暮らしを充実させるため、情報基盤の整備を促進します。

自然環境の維持・保全

- 30 東山連峰の緑豊かな山なみや、傾斜地を活かした棚田・棚池などは、地域の誇りとなる貴重な自然資源です。また、山林や棚田は、治山・治水などの面での防災機能も有していることから、地域住民との協働により、荒廃した山林や耕作放棄地の解消に向けて取り組むとともに、今後とも、このような自然環境を適切に維持・保全します。
- 31 山古志地域における自然環境は、美しい日本の原風景ともいわれ、地域固有の自然景観を形成しています。今後も、来訪者を魅了する自然景観を「山古志地域デザインガイドライン」などを活用しながら、適切に維持・保全するとともに、山古志らしい原風景を活かした景観スポット（視点場）の整備を検討します。

地域づくりの方針図



土地利用		道路(現状)		道路(計画・整備を検討する路線)		凡例	
	レクリエーション交流地		主要幹線道路		主要幹線道路		公共公益施設
	農村集落地		地域内幹線道路		地域内幹線道路		河川
	農地						地域界
	山林・河川敷						